

2026年5月29日

報道関係者各位

バイク未来総研

バイク未来総研、第56回『リセール・プライス』ランキングを発表 『ホンダ・X-ADV』が5回連続の首位獲得！ 2位には注目のニューモデル CB1000F がランクイン！

対象期間 2025年12月～2026年2月

バイク業界のよりよい未来を見据えて、バイクの新しい価値を発掘し広く社会に発信することを目的に活動を行うバイク未来総研(所在地:東京都世田谷区、運営:株式会社バイク王&カンパニー)は、2025年12月～2026年2月の期間を対象に、「再び売却した際、高値の付くバイク」＝「“リセール・プライス”の高いバイク」の上位10車種をバイク王が運営するバイク情報サイト『Bike Life Lab』で発表いたしました。

当指標は、中古バイクの年間取扱台数約10万台の『バイク王』が取り扱うデータを基に算出しており、56回目となる今回は、「ホンダ・X-ADV」が首位に輝きました。



(今回首位となった、ホンダ X-ADV)

※本リリースの調査結果を転載される際は、必ず「[バイク未来総研調べ](https://www.8190.jp/bikelifelab/bikefuture/resale-ranking/)
(<https://www.8190.jp/bikelifelab/bikefuture/resale-ranking/>)」とご明記ください。

■ 総合ランキング

順位	メーカー・車種	リセール・プライス
1	ホンダ・X-ADV	127.0 Pt
2	ホンダ・CB1000F	105.9 Pt
3	ホンダ・CRF1100L Africa Twin Adventure Sports ES DCT	92.7 Pt
4	ホンダ・NC750X DCT	91.7 Pt
5	ホンダ・Gold Wing Tour	91.5 Pt
6	ホンダ・スーパーカブ C125	90.9 Pt
7	ヤマハ・MT-09 SP ABS	87.3 Pt
8	ホンダ・ADV160	87.1 Pt
9	ヤマハ・MT-09 Y-AMT	83.0 Pt
9	ホンダ・PCX125	83.0 Pt

◇2025年12月~2026年2月

56回目となる『リセール・プライス』ランキングは、『ホンダ・X-ADV』が首位に輝きました。

■ ホンダ・X-ADV が 5 回連続で首位獲得！

第 52 回から連続 5 回目の首位を維持した X-ADV は、ビッグスクーターとアドベンチャーの要素を掛け合わせたデザインが特徴の車両です。

街乗り・ツーリング・アウトドアレジャーと、オールラウンドな性能を持つことから、国内に留まらず海外からの需要も非常に高く、前回の第 55 回から約 14 ポイント上がって、引き続き需要の高さがうかがえる結果となりました。また、2 位の『ホンダ・CB1000F』とは約 21 ポイントの差をつけました。

■ 2 位にはホンダ・CB1000F がランクイン



引用：[HONDA 公式 HP](#)

2 位にはホンダ・CB1000F がランクイン。

ホンダ・CB1000F は、CB ブランドのフラッグシップとして登場した大型ロードスポーツバイクです。

2025年のモーターサイクルショーにて「CB1000F Concept」が展示されてから、市販化を期待するライダーの声が多かった車両になります。

外観は往年のホンダ・CB750F／CB900Fをモチーフにしたデザイン。カラーリングは3種類を展開していますが、中でもブルーストライプのウルフシルバーメタリックは1980年代にフレディ・スペンサーが駆ったCB750Fレーサーのグラフィックを彷彿とさせることから大きな注目を集めました。

エンジンには直列4気筒を搭載し、市街地でも扱いやすい出力特性と、安定感のある走りを実現しています。

大型ロードスポーツ市場においてカワサキ・Z900RSが高い人気を誇り、これまでのリセールプライスランキングでも上位の常連として存在感を示してきました。

そこへ、CBブランドの高い知名度と魅力を備えた復刻ネイキッドとしてCB1000Fが加わることで、大型ロードスポーツ市場に影響を与える可能性があります。

今後は、CB1000Fの人気や中古市場での立ち位置、そしてリセールプライスランキングの動向にも大きな注目が集まりそうです。

■ 4位にホンダ・NC750X DCT がランクイン



引用：[HONDA 公式 HP](#)

ホンダ・NC750X DCTは水冷直列2気筒エンジンを搭載するクロスオーバーモデルです。

トランスミッションはDCT（デュアル・クラッチ・トランスミッション）を採用。

マニュアルトランスミッションの構造をベースに、クラッチ操作とシフト操作を自動化して変速を行うことが可能です。

また、燃料タンクをシート下に配置することで一般的なバイクの燃料タンク位置に収納スペースを備えており、フルフェイスヘルメットも収納可能です（形状・大きさによって入らない場合があります）。2025年モデル以降ではヘッドライトをはじめとするフロント周りの外観変更に加え、5インチフルカラーTFTメーターとマルチファンクションスイッチの採用、Honda RoadSyncを標準装備することにより、表示・操作系および連携機能を拡充しています。

足回りではフロントブレーキのダブルディスク化により制動力が強化されたことに加え、新設計ホイールを採用することで、ダブルディスク化に伴う重量増を軽減する設計となっています。

NC750X になって 12 年、NC700X から数えると 14 年。その間に実施された改良でライダーの要望に応え続け、モデル誕生から長い年月が経った今もなお中古市場での高い人気を維持していることから、NC750X DCT に対するライダーの信頼と高い評価を感じさせます。

注目の新モデルがランクインした第 56 回『リセール・プライス』ランキング。次回のランキングの動きにもご注目ください。

※排気量別ランキングは、バイク王が運営するバイク情報サイト『Bike Life Lab』内にある、バイク未来総研の記事に掲載しております。

<https://www.8190.jp/bikelifelab/bikefuture/resale-ranking/>

■ 『リセール・プライス』とは

バイクを再び売却(=リセール)するときの価格(=プライス)を指します。

2026 年 5 月現在、新車で購入が可能なバイクを対象とし、業者間オークションで売却した際の落札金額の平均値と新車販売価格を基に『リセール・プライス』をポイント化。ポイント数が高いほど、『リセール・プライス』が高いと想定できます。

本指標は、中古バイクの年間取扱台数約 10 万台の『バイク王』が取り扱うデータを基に、バイク未来総研が独自に集計したものであり、バイクユーザーが新車あるいは中古バイクを購入する際の参考情報として活用されることを目的としています。

■ 算定基準

- ・国内主要 4 メーカーが、国内で販売しているバイク(2026 年 5 月末現在・逆輸入車を除く)
- ・新車販売価格は 2026 年 5 月末現在の価格を基準。カラー等により価格が複数ある場合は、最安値を基準に算定
- ・モデルチェンジが実施された場合は、最新モデルのみを対象とする
- ・期間内に、バイク未来総研独自の規定台数に達する流通があるバイクを対象とする

■ バイク未来総研所長 宮城光のココがポイント

今、求められているものは単に速く走れるバイクというわけではなく、「高額でも手放したくない・中古でも欲しい」バイクが勝っている」のではないか。

X-ADV が 5 回連続首位を獲得して依然とした強さをみせる中、CB1000F が 2 位にランクインしたのはブランドへのロイヤリティが大きく影響しているだろう。

何と言っても、ホンダ大型ネイキッドへの期待感、CB ブランドの安心感、CB 系ユーザーの支持が幅広い年齢層に広がったことも影響しているだろう。

最近「過激な SS」より、楽・速い・扱いやすい大型が支持される傾向があり、今回のデザインとサイズ感は、現在高い人気を誇るカワサキ Z900RS のライバル車種としてユーザーからの注目度も高まったと考えられる。

そしてなぜ Africa Twin DCT が安定して上位なのか？

その理由は DCT や電子制御による長距離快適性、つまりアドベンチャーバイクとしての完成度にあるだろう。

大型なのに中古で値落ちしにくいのは、「旅目的」のユーザーが多いからだと考えられる。

アフリカツインは距離が伸びても、「使われた=旅した」という見方があり、スポーツバイクほど過走行が嫌われないだろうし、DCT 需要もかなり強いからだ。

このマシンでオーナー自身のストーリーが作れると思わせる魅力があることも人気の理由だろう。

日本のバイク市場の今の傾向としては、バイクに対して、「速い」「馬力」「SS」といったものが強く求められていた時代もあったが、今は、「疲れない」「使える」「旅できる」「自動化」といった要素が求められてきており、二輪も四輪同様に、SUV 化が進んでいる傾向がある。



このランキングを見る限り、日本のライダーは速さを卒業したというより、“乗る回数が増えるバイク”を選び始めた傾向が読み取れるであろう。

【バイク未来総研 について】

2022年3月にバイク業界のよりよい未来を考え、新しい価値を調査し、分析した内容を広く社会に発信することを目的に発足しました。

国内外のレースで輝かしい成績を挙げ現在はモータージャーナリストのほか多方面で活躍する宮城光氏を所長に迎え、バイクライフの楽しさやバイク王が持つバイクに関する独自データ分析などの情報発信に加え、ライダーやバイク業界がこれから描く「未来」に切り込んだコンテンツを順次発信します。



本リリースに関するお問い合わせ先

株式会社バイク王&カンパニー 東京都世田谷区若林3丁目15-4
メディアプロモーションチーム 担当：大倉、萩原
E-mail: prir@8190.co.jp

その他取材に関するお問い合わせ先

バイク王では、バイクに関する取材を随時受け付けております。
取材受付フォーム: <https://www.8190.jp/contact/media/>